

第28号 (2022年 後期)

養寿寺だより

発行日 令和4年7月1日
 編集・発行 真宗大谷派 養寿寺
 〒473-0924 豊田市花園町屋敷56
 TEL&FAX (0565)52-4470
 E-mail n-makino@hm.aitai.ne.jp
 ホームページ 花園町養寿寺で検索

花園町養寿寺

検索

『葬儀』を考える

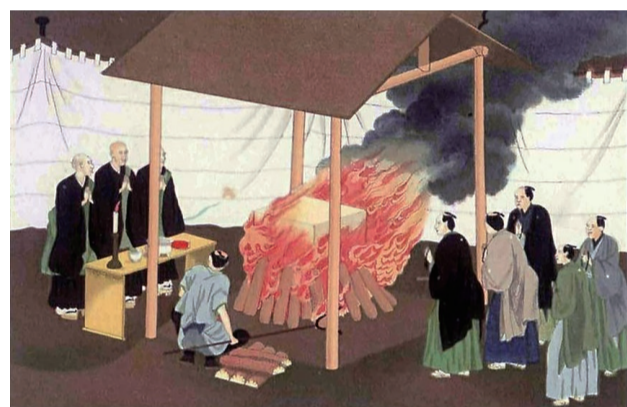
葬儀の司会者：「お坊さんが葬儀会場に入り、みんなで合掌した後・・・葬儀開式の前ではございますが、『棺前のお勤め』をたまりませう」

疑問に思う人などいません。しかし、改めて考えてみると不思議ですね。葬儀はもう始まっているはずなのに、「式の前」とは。

仏式の葬儀も、時代とともに大きく変わってきています。かつて、人はご自宅でも期を迎えることが普通でした。ご遺体は、家の仏壇の前に置かれ、住み慣れた場でお別れのお参りをし、その後、お寺などの葬儀場に葬列を組み運んで行きました。ご自宅でお参りが『棺前のお勤め』です。ところが、今は病院で亡くなられ、そのまま葬儀場にご遺体が運ばれたことが一般的になりました。かつては深い意味のあったものが形としてのみ残っているわけです。

伝統的葬儀と言えども、どの時代までさかのぼるかは曖昧です。浄土真宗の仏教儀式として葬儀が確立されて以降、長期にわたり葬儀は屋外で行われていたと言われています。それで、葬儀の導師は今も椅子（曲録）に座って儀式を行います。また、村の焼き場でご遺体を火葬しお骨にするのに一晩かけるのだそうです。従って、葬儀は夕方に行われていたとも言われています。そう言えば、霊柩車までご遺体をお運びする葬列の先頭に提灯を持つ方を現在もたまたまに見ることがあります。昔から花園町にお住まいで六十代以上の方ならば、花園町にもご遺体を火葬する焼き場があったことも覚えていらつしやるのではないのでしょうか。

遺影も葬儀では当たり前のように飾られますが、写真そのものが一般に浸透する昭和の時代になってからのようです。葬儀の長い歴史を考えれば、遺影は



江戸時代 火葬の絵

新しく登場したものと云えるのかもしれない。

「仏教離れもあって、葬式に対するみなさんの考えが変わってきてますよね」と言われます。もちろん、信仰心は要因の一つです。ただし葬儀は地域社会の道徳的慣習（エトス）でもあり、信の深さと儀式の形は必ずしも一致するものではないと私は考えています。むしろ、家族の形、家屋の建築様式、技術革新などいろいろなものが複雑に絡み合っただんだんと変わってきているのでしょうか。

葬儀の急激な変化の最大要因は「高齢化」だと指摘する専門家もいます。今の日本は長寿社会。故人がご長命だった場合、社会との関わりも相対的に薄れ、お見送りされる方も少なくなる傾向があります。さらに、亡くなる高齢者が増加の一途をたどり、それを支える世代が少なくなれば、葬儀の簡略化は自然な流れと言っても過言ではありません。

「葬式とは一般の人にとって最大かつ最も重要な仏事である」とお坊さんは考えています。その一方で、『葬儀（仏教）・告別式（世俗）』が一緒に語られ、仏教色が徐々に薄まりつつあるのが現状です。「このままだと葬式がヘンテコな仏教儀式になる」と心配する声も仏教界から発せられています。そうは言うものの、葬儀の執行者である僧侶も仏教儀式として頑なに突き進んでいくようなことはしません。いや、できません。なぜなら、大切な方を亡くされたご遺族のお気持ちの問題があるからなんです。ご遺族が故人のためにこうしたいと言え、お気持ちを含んでさしあげるのが『人の道』です。お坊さんはみんな宗教と感情の狭間で悩んでいるはず。また、儀式の伝統を維持していく



釈迦涅槃図（頭北、四華花など今の葬儀にも影響）

ことは時に、経済的負担を伴います。儀式の一部を省いたり、正式なご荘厳でなかつたりすることは避けるべきなのはわかりませんが、その負担も十分考慮しなければなりません。あえて厳密に言えば、一人ひとりが違うように、一つとして同じ葬儀はありません。葬儀の現場に向かうお坊さんにとって「ご遺体を守り、どこを許容するか」は絶えず起こる大きな問題です。

あるコラムで、「お寺を身近に感じるか」という問いかけに、年代別に分けると、50〜60歳代で少し上がる。これは、親の葬儀をだしたことによるものではないか」とありました。「葬式は最大かつ最も重要な仏事だ」ではなく、仏教に関わる入り口になっている面もあるのではないのでしょうか。また、『お寺は』と一括りにしてききましたが、宗派、地域特性、規模など一ヶ寺ごとに大きく状況は異なります。そのご住職の葬儀に対する考え方も様々です。法務に追われ、ご葬儀の依頼を受けることすら簡単ではない大きなお寺の住職もいれば、ご自身のお寺へ依頼された法務だけでは生活ができません、葬儀派遣僧侶のバイト？をこなす住職もいます。

養寿寺は、人口流入地域に位置します。また、いわゆる『都市化』が進んでいます。東京など『都市化』の先行地域では、葬儀に際し『先祖代々の』とか『我が家の』が薄れ、合理的な判断で寺を選ぶようになってきているそうです。ありがたいことに、養寿寺はご葬儀がご縁で初めてお寺に関わってくださる方が一定割合います。その反面、お寺を選んでいただく努力を続けなければ、ご縁も立ち消えていってしまうような気がします。厳しい時代ですが、養寿寺の位置する地域の特性をチャンスととらえ、ご葬儀でできたご縁を大切にするお寺であることを目指してまいります。

神社と寺院 ライバルではなく 仲良し関係

クイズです。『神宮寺』は神社でしょうか、それともお寺でしょうか。これ、日本史の問題でもあり、また日本独特の宗教観に関する問題でもあります。とりあえず『神宮寺』をスマホ検索すれば関連情報はウジャウジャ出てきます。そこに共通するキーワードがある。それは、神道と仏教を対立する宗教ではなく、調和させる宗教的考え方のことなのだそう。簡単に言えば『神様』と『仏様』の仲良し関係。



① 花園 八幡宮

つまり『神宮寺』とは神社でもあり、お寺でもあるのです。かつてはお寺の住職が神社を管理することはよくあることでした。江戸時代には養寿寺が花園町八幡宮（写真①）の管理を担当していたこともありました。寺院と神社、二つの宗教施設



② 神社とお寺 知立市八幡町

が同じ境内地内にあったりすることもある。例え八幡日吉神社と無量寿寺（写真②）です。日本古来の神道と外国から来た仏教を両立させるために、仏教発祥のインドの阿弥陀如

来が日本で八幡大菩薩になったとする考え方も登場し、仏教が日本に広がっていきのと歩調を合わせるように八幡神社は建てられるようになったという説もあるようです。



③ 廃仏毀釈

時は明治になり、政府より神道国教化を背景に『神仏分離令』が出されます。あの『神仏習合』が禁止されます。これを受けて多くの神社境内にあった仏教施設も取り壊されていきます。さらには、一時期『廃仏毀釈』（仏を廃し釈迦を毀損するの意味・図③）という民衆の動きが全国各地で展開されていきます。昨年二月養寿寺世話方会のみなさんと一緒に、研修で知立神社を訪れました。ここは、『神宮寺』と『神仏習合』の名残、多宝塔（写真④）があります。当時の宮司さんが、『書庫』として歴史的仏教建造物を残そうとご努力され何とか無事に残ったとの説明を受けました（写真⑤）。



④ 国の重要文化財 知立神社多宝塔

さて現在、神社と寺院はライバルでもなく仲良し関係とも言えます。神社関係の方と我々仏教関係者が交流することもあまりありませんが、あるご縁で、安城市里町にある不乗森神社（写真⑥）の宮司さんの畔柳弘文さん（写



⑤ 知立神社宮司さんから説明を受ける世話方



⑥ 安城市里町 不乗森神社



⑦ 宮司の畔柳弘文さん

真⑦）とお話する機会がございました。畔柳さんは花園八幡宮の宮司さんでもあります。さらに、中根町の神明宮をはじめ数社の宮司さんも兼務されているそうです。宗教離れやコロナの影響で神社の運営も厳しいものがあるとおっしゃりながらも、かなり多くの神社を兼務しているの、それぞれの行事などで忙しい毎日を送っているとのことでした。



⑧ 花園八幡宮 月次祭

六月五日は花園八幡宮で神恩感謝の月次祭（写真⑧）が行われていました。参加者の全員が町内、小泉地区に新しく引越されてこられた若い方々でした。この地域の特長を感じることも、花園町



御仏供米寄付の会議



御仏供米寄付集めの様子

八幡宮の主催する伝統行事を通じ、地元花園町に愛着を持っていただけたらいい機会になったのではないかと感じました。
(住職記)

世話方会活動・昨年度会計報告

令和3年度 御本山(御仏供米)の会計決算書

1 収入の部

項目	計
前年度からの繰越金	294,280
お仏供米寄付金	1,033,000
行事参加費	0
心元氣塾	0
同朋会から謝礼金 (岡崎教務所)	0
貯金利息	6
合計	1,327,286

2 支出の部

項目	計
花まつり 中止	0
春の法話会 中止	0
お寺へお礼	0
講師料	0
お供料	0
お寺へお礼	0
飲食費	0
同朋会会員費	42,500
(岡崎教務所へ)	
養寿寺同朋会支援金	0
(岡崎教務所へ)	
心元氣塾	50,000
講師料	50,000
お寺へお礼	17,000
飲食費	0
秋の法話会 中止	0
講師料	0
お寺へお礼	0
飲食費	0
除夜・修正会	28,000
庶務費	32,780
境内管理費等	32,780
事務費等	5,560
印刷代	120,000
郵送料	29,148
その他行事費	27,002
ピンゴ大会賞品代	27,002
慶弔費	30,000
火災保険	100,000
本堂の掛金	100,000
庫裏の掛金	19,900
小泉墓地の清掃	20,000
作業手当	20,000
備品代費	39,528
お茶代等	12,113
世話方研修会	91,600
合計	665,131
差引残高 (1-2)	662,155

3 次年度への繰越金

普通貯金	あいち豊田農業協同組合	662,155
定期貯金	〃	300,058
合計		962,213

以上の通り報告致します。令和4年3月31日

みなさまから賜りました貴重な御仏供米料、寄付を含めた世話方会活動に関する令和三年度会計報告を記載させていただきます。お寺やお墓の整備、お寺の行事の充実に努めてまいります。
(代表 寺田明久・会計 樹神誠)

令和四年度

養寿寺組織一覽表

住職(代表役員)
坊守(責任役員)

総代(責任役員)

【敬称略】

牧野 直人
牧野千珠子

樹神 守

鶴田 松己

池田全輝夫

樹神 誠

樹神 守

池田全輝夫

樹神 玲子

樹神 誠

樹神 孝行

後藤 彰一

谷 行雄

加藤 礼子

杉山 陽子

樹神 啓子

中村まゆみ

養寿寺世話方会(◎は代表)

男性 ◎寺田 明久

寺田 孝男

鶴田 松己

池田全輝夫

志賀 敏男

寺田ひさ代

佐野 直美

寺田 祐子

志賀さつき



責任役員を引退された樹神康久様



世話方を引退された寺田和男様



役員総会の様子①



役員総会の様子②



ビンゴ大会の司会進行



世話方役員 研修知立神社

令和四年 年忌 早見表

一周忌	令和三年	ご逝去
三回忌	令和二年	〃
七回忌	平成二十八年	〃
十三回忌	平成二十二年	〃
十七回忌	平成十八年	〃
二十三回忌	平成十二年	〃
二十七回忌	平成八年	〃
三十三回忌	平成二年	〃
五十回忌	昭和四十八年	〃

お布施のこと、お一人以上の年忌法要のこと、区切りを付けるための『弔い上げ法要』ことなど、ご質問そのものが仏教に触れていただくことにもなります。遠慮無くご相談ください。また、コロナ禍の中で、広いお寺を法要の場所としてご利用される方も増えております。また、椅子もご用意できます。ご利用ください。
(☎〇五六五―五二一四四七〇)

昨年十二月から本年五月までの 主な行事のご報告

一・戦没者追悼法要

昨年の十二月七日に花園町戦没者追悼法要が戦没者遺族会主催で執り行われました。お父様を戦争で亡くされた方が徐々に減り、遺族としてお孫さんがお参りされることも増えつつありますが、非戦の誓いと平和への願いを込めた法要と位置づけ、大切にしています。(庫裏の広

間で実施)



戦没者追悼法要の様子①



戦没者追悼法要の様子②

二・除夜の鐘撞き



除夜の鐘撞きの様子



午前0時からの修正会

三・書き初め会

新年一月四日に恒例の書き初め会を実施しました。参加者は五名でした。なお、表彰式はせず、後日、参加者のみなさんには、賞品をお渡ししました。



書き初め会の様子



書き初め会の作品

四・蓮如忌

御志納額は、五十二万三千元

多くの方に御参詣ならびに御志納いただきありがとうございました。コロナウイルス感染ま



法話 天野義敬先生



法要の様子



蓮如忌 準備の様子



落語 笑福亭仁智師匠



ビンゴ大会



受付入り口での検温

ん延防止の観点から、昨年と同様入り口での検温とアルコール手指消毒を実施。また、参詣席の間隔を広く取り法要を行いました。お斎(昼食)は持ち帰り弁当に切り替え、音楽法要も取りやめました。コロナ禍2回目の蓮如忌参詣者数は、前年より三名減。御志納額も、八千円の減少でした。法要法話の内容は、一日目午後、法要と法話。そして、景品のさらなる充実を図った養寿寺世話方会主催の『ビンゴ大会』。二日目の午前は、法要と落語という内容で実施いたしました。お斎に代わりの弁当も好評でした。お斎に代わってはほぼ三年間、提供できていません。また、食材の提供を受けていたAコープ若林店が閉店される予定です。再開するにしても新たな形を検討しています。

短信

一・豊田市仏教会主催『花まつり』

四月六日に豊田市産業文化センターにて市仏教会（拙住職会長）主催の『花まつり』を実施しました。仏祖の誕生を祝う仏教行事に続き、CBCラジオ『朝PON』司会者の多田しげお氏を講師に招き、講演会を行いました。会場は満席。示唆に富む内容をユーモアを交え話され、すばらしい講演会となりました。



花まつり法要の様子



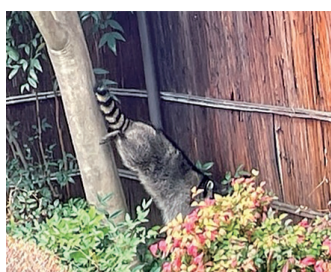
講演会 会場は満席



多田しげお氏との記念撮影

二・『アライグマ』捕獲

ここ数年、近隣の方々よりお寺にアライグマらしきものが出没しているとの報告を受けておりました。お寺側でもアライグマの存在をしっかりと確認できましたので、業者（石川環境サービス）に害獣駆除を依頼しました。数力所に、ワナを仕掛け、定期的にあさを変えていただいた結果、この五月にアライグマ二匹の捕獲に成功しましたのでご報告申し上げます。花園区長さんにもアライグマの捕獲をご確認いただきました。



庭でアライグマを確認



捕獲されたアライグマ

三・仏前結婚式

養寿寺住職の息子、牧野俊一が三月二十六日（土）養寿寺本堂にて仏前結婚式を行いましたのでご報告させていただきます。コロナ禍で、参列人数を可能な限り制限し、両家親族とお寺からは総代さん四名にご出席いただきました。お相手は藤嶋杏佳さん。新郎新婦二人とも豊田市の教員として働いております。



仏前結婚式 三々九度



参列者記念撮影

四・お寺での追平会

①厄年還暦同年会『花園としわ会』（会長・寺田孝男様）物故者追悼法要 三月九日（水）ならびに ②花園ふれあいクラブ物故者追悼法要三月十四日（月）が養寿寺で執り行われましたのでご報告申し上げます。



としわ会 物故者追悼法要



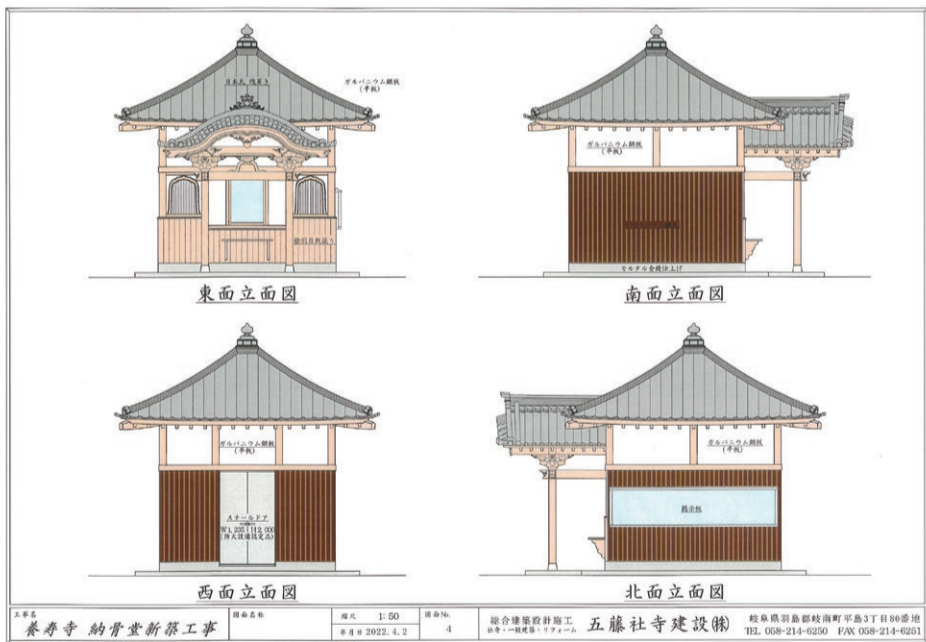
ふれあいクラブ 物故者追悼法要

六・養寿寺納骨堂 経過報告

豊田市の指導を受けながら、養寿寺納骨堂建設を少しずつ進めております。順調に進めば八月末に着工、来年の二月末には完成予定です。納骨堂の建設費用については養寿寺の積立金より捻出いたします。企業と連携した豪華な納骨堂ではありません。養寿寺にご縁のある方のための納骨堂です。また、お参りしていただきやすいお堂デザインにしました。左の図が完成予想図です。その一方で、長期にわたり安定した納骨堂運営も宗教法人に課された責務であるとも言われます。そのため納骨堂冥加金（費用）などについては、多くの方のご意見をいただきたく存じます。



工事の概要を説明する看板



【令和四年度 12月までの主な予定 ご案内】

新型コロナウイルス感染まん延防止の観点から行事の一部を中止しました。申し訳ありません。

《中止にした行事》

- 1. 令和4年4月8日 養寿寺『花まつり』……中止しました。
- 2. 令和4年5月 世話方会主催『春の法話会』……中止しました。

- ◎7月下旬の2日間を予定 ころの元気塾 午前6時15分～午前7時30分 詳細は未定
 - ◎8月13日(土)または14日(日) 合同初盆会 実施【初盆の方にご案内申し上げます】
8月下旬 子ども対象 ラジオ体操とお経のお稽古 実施かどうかは未定
9月初旬 養寿寺世話方会主催 秋の法話会 実施かどうか未定
 - ◎9月の お彼岸 養寿寺永代祠堂法要 実施 参詣者の方にはお寺より詳細と出欠席確認のハガキをお出しします。
 - ◎10月28日(金)～30日(日) 報恩講 実施 詳細は未定 行事が近づきましたら詳細をご連絡します。
 - ◎蓮華の会(書写の会) 今年秋には再開予定 人数制限あり 過去に参加された方には個別に連絡する予定です。
- 今後も コロナウイルスの感染状況を注視しながら実施の可否や行事の内容を検討してまいります。